

町内各地で甚大な被害 豪雨災害のつめ跡



6月16日の未明から17日にかけて降り続けた雨の影響で、町内は土砂崩れや床下浸水、河川氾濫による農地流失など甚大な被害が発生しました。

これは梅雨前線が九州南部に停滞し、暖かく湿った空気が流れ込んだ影響によるもので、土砂崩れ13カ所、道路冠水2カ所、道路陥没4カ所、護岸崩壊・河川氾濫4カ所などの影響により通行止めなどが相次ぎました。このほか、

住宅における床下浸水14カ所や床上浸水1カ所、農地、山林の崩壊、水道管の破損による断水など被害が続出しました。町内で最多降水量を観測した気象庁の加世堂観測局では、16日、午前2時から3時までの間、時間雨量88ミリの猛烈な雨が降り、被害をもたらした前日からの連続雨量は418ミリのほりまりました。

町では16日、午前8時に災害対策本部を設置。あわせて町消防団に出動をかけ、水防

活動や高齢者宅などの見回り、避難の広報活動を行いました。

今回は特に長島本島南部地域の被害が大きく、馬込集落では町道山門野汐見線沿いの土砂崩れと工事中の道路路盤が流出。約150坪が陥没し、一時孤立化しました。

汐見集落では、水田横の山が崩落。管理道と稲を作付けするため準備されていた農地は、倒れた木々や粘土状の赤土、山や河川脇から流入してきた水で一帯を飲み込みました。同地区内の町道汐見線では、山からの鉄砲水により道路を洗い流し、アスファルトは剥げ、無残な姿になりました。

城川内集落の城川内川や指江集落の指江川、浦底集落の倉三川などは護岸を越え氾濫。このほか多くの河川や水路でも護岸を崩壊し、農地、道路が土砂で埋め尽くされ、自然の驚異を見せ付けられました。